

Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・レポート

Vol.11



佐川町立図書館 さくと

町の未来のため、ともに図書館を“育てる”

佐川町立図書館 さくと（高知県）

- ミニ座談 小規模自治体における図書館システムの最適解とは？
- コラム もっと知りたい！「デジタル資源カード」と「さかわクエスト」

町の未来のため、 ともに図書館を“育てる”

佐川町立図書館 さくと（高知県）

Braintech Library Report vol.11 では、情報館の導入実績の少ない公共図書館での事例として、高知県の佐川町立図書館 さくと を訪ね、館長の青木様、司書ならびに図書館スタッフの皆様からお話を伺いました。

町民ひとりひとりと、未来を育む

——佐川町立図書館の成り立ちや特徴について、教えてください。

まず、佐川町立図書館の沿革としては、1910年、県内初の私設図書館として公開された「川田文庫」まで遡ります。1925年には寄贈を受けて「青山文庫」と名称を改め、貴重な郷土資料を扱う施設として地域の文化財の保存に貢献しました。一方で、町民に向けた資料の貸出機能を持つ図書館が、1979年に佐川町総合文化センターに開館します。

2012年、「図書館建設を求める請願書」が町に提出されたことをきっかけに、新しい図書館の建設が検討されます。どんな図書館が必要とされているのか、フィールドワークやインタビューを通して対話を重ね、町民ひとりひとりの想いが建築設計や運営基本方針に反映されるよう努めました。

そうした変遷を経て、2024年、今の図書館のかたちに生まれ変わったのです。情報館を導入したのもこのタイミングになります。



佐川町立図書館 さくと は、「町民のみなさんの「知りたい・学びたい・やってみたい」という思いと、まちを舞台に生まれる様々な活動のあいだを繋ぐ広場」として、5つのコンセプトをもとに活動しています。

ひとりひとりが、自由に情報や知識に触れられること。
子どもも大人も、学び合いの輪を広げられること。
すべての人にやさしい読書環境が整えられていること。
佐川ならではの地域資源の収集・保存・活用を進めること。
町民のみなさんと一緒に さくと を育てること。

佐川町の文化と歴史を伝えながら、地域の交流や学びの拠点となり、すべての町民と一緒に「さかわの未来」を築いていくことを目指しています。



地域に根ざした資料の充実

——おもに資料の収集や提供について、どんなことを意識されていますか？

蔵書数は一般図書・児童図書をあわせておよそ5万冊。佐川町の郷土資料のほか、佐川町出身の作家や声優が関わっている作品のコーナーも設けています。

また、令和8年度の重点的な取り組みとして挙げられる



佐川町立図書館 さくと
高知県高岡郡佐川町乙 1862-1
<https://sakawa-lib.jp/>

のが、佐川町デジタルアーカイブと高知新聞記事検索データベースです。

佐川町デジタルアーカイブでは、佐川町の古文書や絵図、地図、写真といったさまざまな文化資源をデジタル化し、順次公開しています。

高知新聞記事検索データベースでは、明治期から11日前までの膨大な記事を網羅的に検索できます。大きな都市では当たり前かもしれませんが、高知県の市町村立図書館の中でこのデータベースを取り入れているのはうちだけです。費用が高いため反発もありますが、効果のあるものは入りたいという思いでやっています。便利だなと感じてくれる利用者は増えているのですが、なかなか浸透しないので、利用率が上がるよう、イベントや広報を通したさらなる周知を図っています。

また、自由に知識や情報に触れられる工夫を凝らしている点も、さくとの特徴のひとつです。配架は上下混配（上段は一般図書、下段は児童図書）とし、分類ラベルも一般図書と児童図書で色を分けています。他にも、デジタル資源カードの活用やタブレットの貸出などをおこない、利用者の学習を支援しています。



それぞれの目的に応じた「スタジオ」

——第42回日本図書館協会図書館建築賞を受賞されたということもあって、図書館の建築としてもこだわりが見られると思います。

館内には、それぞれの利用目的に応じて設計された「スタジオ」があります。

これらのスタジオは8の字の動線で結ばれており、館内を回遊しながら、利用者にとって最も過ごしやすい居場所を見つけることができます。



読書や勉強に集中したい時には「じっくりスタジオ」で静かに過ごし、誰かと話し合いながら活動したい時には「学び合いスタジオ」や「グループ学習室」を利用できます。たくさんの絵本を描いた「こどもスタジオ」のそばには、お子さん用のトイレや授乳室も備えるなど、図書館を訪れた方がどんなふうに図書館を活用できるかを考えた構造になっているんです。

——利用者ひとりひとりが、自分らしく過ごせる場所なんですね。

イベントをととした交流と学びの支援

——学びや創造の拠点として、イベントにも力を入れられているそうですね。

私たちは、館長のほか、司書5名からなる「図書チーム」と、佐川地域プロジェクトマネージャーや地域おこし協力隊3名からなる「学び合いチーム」に分かれた、やや特殊な運営体制になっています。

この2つのチームの協力による利用者支援のひとつとして、定期的にさまざまなワークショップイベントを開催しています。地域の人々の交流を繋ぎ、佐川町の歴史や文化に触れる機会をすることで、「学びのサイクル」を育むことができないかと試行錯誤しているんです。



——たとえば、どのようなイベントを開催しているのでしょうか？

絵本の読み聞かせや読書会はもちろん、こどもスタジオのスペースを利用した短編映画の上映会など、いろんな企画があります。地域の住民の方から有志を募り、佐川町について探究したことを共有する講演をおこなってもらうことも。

ふるさと探究ゲーム「さかわクエスト」という、佐川町の歴史や特産を学べるオリジナルのすごろくゲームで遊ぶイベントも人気ですね。

——「さかわクエスト」はおもしろいですね。弊社も創立40周年を記念して、ブレインテックの社史を辿るすごろくを作ったことがあるので、ぜひこれも遊んでみたいです。

さかわクエストには、たとえば『高知新聞のデータベースで自分の誕生日の記事を見てみよう』というお題があります。こういうところでも図書館の利用促進のきっかけを作れたら、という思いで工夫しています。



指針を支える「佐川未来学」

——図書館が評価される時、どうしても来館者数や貸出冊数に縛られてしまうという実情があると思います。けれど、佐川町立図書館さんの取り組みは、そうしたデータとしての数字だけを追い求めるのではなく、地域の人たちの交流や新たな発見のために図書館を活用してほしい、という思いを感じます。

こうしたイベントはただの思い付きでやっているのではなく、「佐川未来学」という佐川町全体の教育基本方針・総合計画に基づいています。先ほどお話しした「佐川町立図書館 さくと の5つのコンセプト」も、この佐川未来学という考え方から成り立っているもので、私たちの取り組みのすべてが佐川町、ひいてはその未来に還元されていくことを目指しているんです。

——図書館が良くなることがゴールではなく、町が良くなるために図書館がどう機能するかという視点があるんですね。

この図書館は、町民たちの声に励まされながら、望まれて生まれ変わった場所です。資料の貸出だけが求められているわけじゃないよね、地域のコミュニティとしての役割も大切だよね、という思いは全員一致していて、そう在るためにどうやって運営していこうかと考えた時、現在の形になりました。

そして、こういった運営が花開いたのは、チーム同士の協力体制によるものだと思います。学び合いチームというちょっと自由に動ける存在がいるからこそ、これまで司書さんが片手間にやっていたようなことを、メンバーそれぞれの得意分野を活かして力を入れることができたし、イベントひとつにも広がりを見せられるんじゃないかなと。

——ちょっと違う立場の人がいることで、お互いに客観的な視点が持てるということでもあるのかなと思いました。

そうですね。傍から見れば「そこまで図書館がやるんだ」って思われるような取り組みもあるかもしれませんが、私たちからすると図書館の活動として自然に繋がっている感覚です。図書館を中心に、さまざまな人を巻き込んで……それは、私たちもまた、佐川町というこの小さな町の住民のひとりであることで成り立っていると思います。

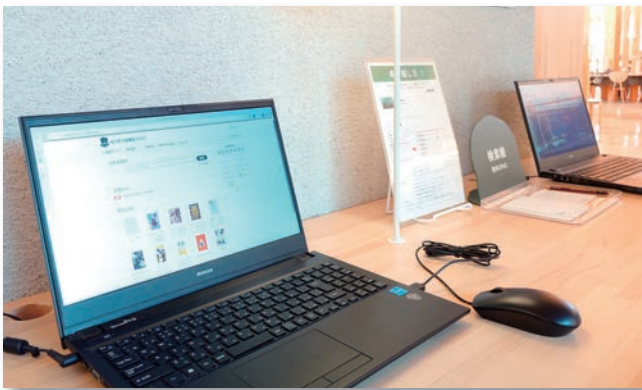
利用者と図書館を繋ぐパスポート

——弊社は公共図書館での導入実績が多くないので、佐川町立図書館さんへの導入は私たちとしても緊張感のある試みでした。地域住民の方からの協力もあり、チームの体制が整っているとはいえ、ご苦労もあったと思います。そんな中で、みなさんが職員として、開館へ至るまでに大変だったのはどういうところでしたか？

短期間でのデータの移行が必要でしたし、システムが変わることに対する漠然とした不安は大きかったです。画面も、操作方法も、なにもかも違いますから。

でも、担当の方が何度も打ち合わせをしてくれたこと、開館当日も付き添ってサポートしてくれたこと、開館してからも電話をすれば丁寧に対応してくれること……といった途切れのないサポート体制があったことで、大丈夫かもしれないと思えるようになりました。

最も象徴的だった瞬間は、利用者カードを作って、機械に通して無事にデータが紐づけられた時です。私たちからすればバーコードはただの数字かもしれないけど、利用者にとっては、自分と図書館を繋ぐパスポートのようなものだと感じているので、「これで開館できる！いける！」と思いました。



——建物や資料と違って、システムは目に見えないものなので、実際に使ってみるまで良さも悪さもわからないと思いますが、安心していただけたようで良かったです。

以前のシステムでは、現場とベンダーの間に立ってくれる地元の業者さんがいて、その人になんでも相談できました。だからこそ、地元ではないところの業者さんに変わるという不安は大きかったです。でも、ブレインテックさんとは、自分たちの課題を伝え、改善の場を一緒に作っていきける、双方向のやり取りがありました。直接目線を合わせて対話できたことで、東京と高知という離れたところにいるけれど、心理的な距離が近づいていった気がします。

——もったいないお言葉です。これからも、図書館システムを通して、町の未来を繋げるためのお手伝いができれば嬉しいです。本日はありがとうございました。



システム構成	基本システム 5 台 セルフ貸出 1 台（ネットワーク） OPAC サービス（プレミアム版・利用者ログインオプション）
蔵書数	約 5 万冊
導入年	2024年

〈ミニ座談〉 小規模自治体における 図書館システムの最適解とは？

アカデミック・リソース・ガイド株式会社
代表取締役／プロデューサー 岡本 真

× 株式会社ブレインテック
広報担当 関 乃里子

関：今回の取材のため、初めて佐川町立図書館 さくとを訪ねましたが、ほぼ全員のスタッフの方から直接お話を聞くことができて、感激しました。こういった取材では、代表の方からまとめてお話を聞くだけのことが多いので、決して大きくはない図書館ですが、さまざまな人が関わってつくられてきたんですね。

岡本：私は、この町の図書館が さくと として生まれ変わる前からずっと関わっていて、今でも年に4回は足を運んでいますけど、さくと はキーパーソンがしっかり機能しつつ、ひとりひとりの職員さんも生き生きとしていて良いチームですよ。まず館長はコミュニケーション能力が圧倒的に高い。さらに、スタッフの中に、現場とシステムベンダーの間に入って「通訳」になる人がいた。そして、図書チームと学び合いチームが互いの得意分野を活かして柔軟に連携している。

関：そのことは、取材中にも伝わってきました。みなさん、ブレインテックの図書館システムの良さや課題を、ご自身の言葉でしっかり語ってくださいました。システムを選定時はたくさん不安があったというお話が出た時には「やっぱりそうだったのか〜」とも思いましたが。

岡本：まあ、リプレイスの場合、どうしても最初は前のシステムと比較してしまうからね。

関：はい、でもそのあとの過程で、しっかり向き合えば受け入れてもらえるという手ごたえも感じました。

岡本：それは、ブレインテックが同じ問題意識をもって、根気強く現場に寄り添い続けてきた結果なんじゃないかな。ブレインテックのサポートは、図書館側が想像する「コールセンター的なサポート」とはまったく

違いますよね。会社組織がコンパクトで社員ひとりひとりの「顔が見える」からこそ、困っているお客様のために柔軟に動ける。それがブレインテックの強みでしょう。

関：それなら嬉しいですね。ただ、公共図書館での実績は多くないので、まだまだ自分たちの姿勢をどう伝えていけばいいのか、手探りなところもあります。

岡本：システム選定時の差別化については、単純に「導入費用の違い」や「オーバースペックの回避」で語ればいいでしょう。大手のシステムは高額で、小規模自治体にとっては現実的ではないし、図書館の現場もそこまでのスペックを求めている。財政も人員も限られている自治体には、値段相応でありつつ親身に相談に乗ってくれるベンダーが不可欠です。

関：なるほど。

岡本：ただし、導入する図書館の側も、システムに圧倒的な無謬性（完璧さ）を求めるのではなく、リスク管理も含めたトータルでの覚悟を持つマインドセットに切り替える必要があります。

関：はい、お客様に「こんな図書館にしたい」という思いや覚悟があって初めて、私たちはそれを全力で支援できる。私はよく、この自社の顧客支援のカチを「バイク」ではなく「電動アシスト自転車」に例えています。

岡本：まさにその通りです。良きパートナーシップを築くには、スターターはあくまで顧客の側でなければなりません。自治体側が自分たちで最初の一手となる駒を動かすことで、ベンダー側が適確に次の一手をアドバイスし、ともに図書館を育てていけるのです。



岡本 真 (おかもと まこと)

全国の図書館や文化施設の整備・運営を支援するコンサルタントとして、全国1,500館以上を自ら巡った知見を活かして活躍。総務省「地域情報化アドバイザー」として、図書館DXやアーカイブ化の推進も幅広く支援する。2024年12月開館の「佐川町立図書館さくと」整備事業では、2019年度の構想段階から設計プロポーザル選定、開館準備、開館後の運営体制整備まで、約7年間にわたり一貫した支援を行っている。

もっと知りたい!

デジタル資源カードとは？

デジタル資源カードとは、Web上のサイトやデータベースの「案内パネル」を書架に置き、リアルな図書館とオンラインの情報源を繋ぐものです。

アクセスしないとその存在が見えないデジタル資源を「見える化し、図書館の利用行動のなかに組み込む」ことができます。



利用者に適切な資料を案内することは、図書館の数ある役割のひとつです。利用者が求めている情報は、自館の所蔵情報の中だけにあるとは限りません。図書館で働く人にとっても、誰かがレファレンスカウンターに相談にやってきたら、メディアを問わず、さまざまなツールを使って

情報を探索するのではないのでしょうか。しかし、利用者は、図書館が所蔵する資料の他にも、調べる手段があることに気づいていないかもしれません。「図書館のみなさんが先立ってデジタル資源に親しみ、案内することは、利用者の選択肢を増やし、情報体験を大きく広げることにつながる」のです。

デジタル資源カードのテンプレートは、インターネット上で公開されています。紙とプリンターさえあれば、すぐに作れるのです。特別なものは必要ありません。あとは、「この棚の前にいる人にこんな情報を届けたい」というひらめきだけです。

引用：間嶋沙知，接点と経験のデザイン〈実践編〉／ライブラリー・リソース・ガイド，第49号，2024年



「Canva」で公開されている
デジタル資源カード25選テンプレート（A6）

さかわクエストとは？

さかわクエストとは、佐川町の「歴史・人物・自然・産業・文化など、地域にまつわるさまざまなクエストに挑戦」できるオリジナルのボードゲームであり、「遊びながら地域の魅力を発見し」、「子どもから大人まで楽しめる探究型プログラム」です。



町内の小中学校でおこなわれている、地域に根差した学習にも繋がるように設計されています。

たとえば、「化石を掘ってみよう!」というクエストは、町立佐川地質館の協力のもと、本物の化石を用意しており、参加者は自分の手で発掘する体験ができます。これも、佐川町がさまざまな化石が発掘されている町であることに由来しています。すべてが佐川町と関係しており、ひとつひとつ意味があるのです。また、インタビュー中にも触れられたように、クエストを通して、図書館が所蔵している資料やデジタルアーカイブを活用する機会にもなります。図書館の利用促進という視点から見ても、興味深い取り組みです。

さかわクエストは、佐川町立図書館 さくと にて、毎月第4日曜日に、無料で遊ぶことができます。

引用：佐川町立図書館 さくと <https://sakawa-lib.jp/2025/04/1150/>



小規模図書館に必要なもの全部。

～中小規模の図書館に最適なベストセラー図書館システム～



✓ OPAC は図書館の「顔」

資料検索はもちろん、開館日カレンダーやお知らせ機能、ブックリスト機能などを備えたOPACは、そのまま図書館のホームページとしても使えます。

✓ デジタル資料公開も OPAC で

OPACで簡易的なデジタルアーカイブの公開が可能。専用システムがなくても自館発行物や貴重資料をPDFや画像データで公開できます。

✓ 蔵書管理だけじゃない。

利用者からの問い合わせを記録・管理できる新機能「レファレンス管理」や、日々の業務を記録できる業務日誌機能を備えています。

毎月第3水曜日は
ブレインテック
オープンデー



きてね



図書館システム紹介

来て、見て、さわって！
東京/大阪ショールーム

予約
不要

図書館システム「情報館」を実際に操作できる！
そのほか図書館情報サイト「Jcross」主催イベントや
図書館関連製品の展示、体験会を開催



図書館装備用品展示



図書館関連グッズ展示



各種イベント開催

ショールームはちょっと違い…そんな方には
オンラインイベント

事前
予約

図書館システム「情報館」のここがおすすめ
製品の特長が分かるイベントを随時開催！
イベントの最新情報はウェブサイトをご覧ください



お問い合わせはお気軽に

製品の無料トライアル、デモンストレーション、
オンライン相談を承っております。



ブレインテック・ライブラリー・レポート Vol.11

発行日／2026年10月1日

発行元／株式会社ブレインテック

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-3-16 西五反田8丁目ビル 7F

TEL.03-4330-3655 <https://braintech.co.jp/>